

## 塚坊主古墳(玉名郡和水町)

江田船山古墳公園に所在する清原台地古墳群の一基/6世紀初頭築造の前方後円墳



前方部から後円部方向を見たところ/後円部に横穴式石室が開口している

 [video](#)



説明板



古墳全景



墳丘の周囲には周溝が巡っている

## 墳 丘

塚坊主古墳の墳丘は、開墾などによって周囲を削られて、長さ33m、幅14mの三日月形に変形していたものを復原したものです。

昭和50年（菊水町教育委員会）、昭和56年（県教育委員会）の確認調査で墳丘の平面形、規模等の概要が確認されていましたが、平成4年の保存整備事業に先立つ発掘調査でその全貌が明らかになりました。

墳丘の全長は43.4m、後円部直径29.6m、前方部先端幅20mで、前方部は左右対称にはなっていません。

後円部の直径に対して前方部が短く、約2:1の比率となっています。

墳丘の周囲には、幅4.6～6mの周溝<sup>しゅうこう</sup>が巡っていますので、周溝を含めた全長は54mとなります。

墳丘の高さは、後円部で約4.5mの高さに残っていました。石室の構造等からみて、本来の高さは5.5～6mであったと推定されます。

## 主体部

主体部は、長軸をほぼ南北に向け、くびれ部に向けて入口をもつ複室の横穴式石室です。

短い羨道(通路)は、人頭大よりやや大きい割石で塞がれています。

前室は小さく、奥行き約80cm、幅1m前後の大きさです。羨門、玄門には両側に袖石が立てられていましたが、東側のものは抜き取られて現存しません。

後室は、奥行き約2.7m、幅約2.5mのほぼ正方形で、奥壁に沿って主たる埋葬施設である石屋形が設けられています。石屋形の前には、仕切石による屍床が設けられています。石屋形の蓋石は家形で、いくつか割れており、現在はその一部が残っています。

石屋形の内面には、赤と白の2色で、円文、三角文、菱形文が描かれています。

石室の側壁は、安山岩の割石を小口積みにしています。上部は崩壊していますが、ドーム状に積み上げ、一枚の天井石で塞がれていたものと考えられます。後室と前室の天井石と思われる巨石が各一枚ずつ現存しており、古墳の南側に展示しております。

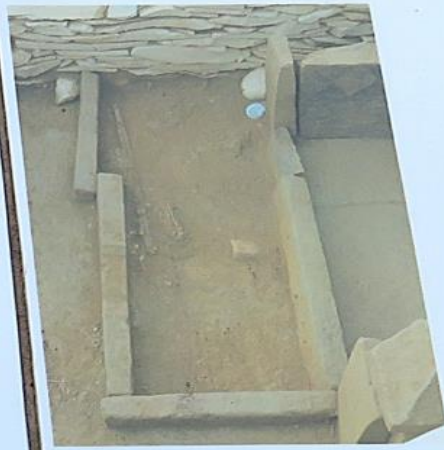
このような形式の石室は、肥後型石室と呼ばれ、熊本県を中心として分布しています。

装飾古墳の数は、全国で約480基余りといわれていますが、その大半が九州にあり、熊本県には全国の約4割にあたる180基余りが分布しています。なかでも菊池川流域に多く分布し、この地域の特色となっています。

横穴式石室



### 遺物の出土状態



四獣鏡



## 出土遺物

周溝の中から、埴輪と須恵器が出土しています。  
埴輪は、円筒埴輪、朝顔形円筒埴輪と人物・鳥などの  
の形象埴輪で、須恵器は、杯、高杯、壺、甕、甗、  
器台などです。

埴輪や須恵器は、古墳の年代を決める手がかりと  
なり、この古墳は6世紀の初め頃に築造されたと考  
えられます。

石室の内部は、何度か盗掘等を受けていましたが、  
平成2年度の発掘調査により四獣鏡、金環、銀環、  
ガラス玉、轡・杏葉などの馬具類、直刀、刀子、鉄  
鍔、鉄滓が出土しました。また、中世に墓として再  
利用されており、火葬骨、青磁、土師器、石塔の相  
輪なども出土しています。

室

羨道

石室

周溝に下りて、前方部から後円部方向を見たところ



そこで、左手を見たところ



反対側で、前方部から後円部方向を見たところ

 [video](#)



ここが横穴式石室の入口/施錠されていた

 [video](#)



そこで、左手の前方部を見たところ



同じく、右手の後円部を見たところ



反対側で、括れ部を見たところ/左手が後円部、右手は前方部

 [video](#)



そこで、左手の後円部を見たところ



同じく、右手の前方部を見たところ



後円部を後ろから見たところ

 [video](#)



これは熊本県立装飾古墳館に展示されていた、塚坊主古墳の横穴式石室の玄室(後室)にある石屋形内壁の装飾文様/円文、連続三角文、菱形文が描かれている



塚坊主古墳

和水町瀬川

6世紀初頭

